

こうち、(再) (新) 発見!

TOSABUSHI

とさぶし



高知家
【第7号】
二〇一四年

TAKE FREE

特集

水辺のひとびと

アゲアゲ天国 港町のかき氷

せがれ 高村俊寛(高村火薬店)

とさ印 吉田浩子さんのグラス

伝説探訪 河泊様

戦国元親くん 気を配る

でんづきでんづき ヤ・シイパークにて

とさぶしお知らせコーナー

目次

TOSABUSHI 第7号
とさぶし 2014年

はみだし企画満載! web限定コンテンツ

web版“あだてん”
<http://tosabushi.com>

電子書籍でも
見ることが
できます!

電子書籍版、配布場所は上記HPをご覧ください iPhone、iPad、Android対応!

facebookもやっています!
<http://www.facebook.com/tosabushi>

発行
高知県文化生活部文化推進課

〒780-8570 高知市丸ノ内1丁目2番20号(本庁舎5階)

Tel 088-823-9793 Fax 088-823-9296

E-mail 140201@ken.pref.kochi.lg.jp

発行日:2014年6月24日(季刊)

企画 とさぶし編集委員会

制作 南の風社

バックナンバーの入手方法

お近くに配布先がない場合は、送料分の切手を送っていただくと、受け取り次第発送をいたします!

【送料】

1冊・2冊 180円

3冊 215円

4冊・5冊 300円

6冊以上の場合は、一度ご連絡ください。

お問い合わせ・送付先は、高知県文化生活部文化推進課(上記)まで。

スマチチブ:高知では“こり”などと呼ばれ、子どもたちにも親しまれている魚。
佃煮や唐揚げで食される。四万十川では、「ガラ曳き」または「ゴリガラ曳き」
というサザエの貝殻を使った、伝統漁法が伝えられている。



このパンフレットはまぐしの収益金の一部で作成しています。



水辺の ひとびと

森が育み、川が運び、海に流れる。

水の豊かな国、高知。

人は水辺に暮らし、遊び、ときに生計を立てる。

人は森、川、海と共に生きている。



川で働き 山に暮らす

ゴツゴツした岩が顔を出す川面へ。真っ白い水しぶきの中は、ジェットコースターさながら。ボートはぐっと傾き、テンションMAX！

高知から徳島へ流れる吉野川は、急峻な四国山地の谷間を流れる暴れ川。早明浦ダムの放水も相まって、夏場も水が枯れず、大歩危・小歩危エリアは日本一の激流スポットとして名高い。

パドルを持ったお客さんに乗せて小柄な女性が舵をきる。「お客さんはエンジン、私が車のハンドルを握っているような感じ」。多田梓さん(27)は、大豊町を拠点とするハッピーラフトのラフティングガイド。「今が最高」と言い切る。



大地の爽快感に浸る

多田さんは高知市の神田川が流れる田園地帯で生まれ育った。「田んぼに囲まれた小学校に通って、野球したり、鬼ごっこしたり。とにかく体を動かすのが大好き」。中高はバレーボールに打ち込んだ。しかし、将来の夢は見つけられなかった。高校を卒業して、薬局に就職。遊びたい、服がほしいで散財し、給料はあつという間になくなり、常にギリギリの生活だった。「朝から夕方までパソコンに向かう仕事で、夕ご飯を食べたらバレーボールの練習。忙しくて、退屈で、いつも不満で」。憧れの北海道でスノボをしよう。



ほとどの山の上に古民家を見つけた。「お風呂もトイレも外。でも、電気も水道も通って、携帯の電波も良好。それで、月5000円!」。畳を入れ替え、床を修理し、シンク台を作り直した。朝は鳥の声で目が覚め、縁側に座ってコーヒを飲む。「ここにウッドデッキを作ったら寝っ転がって星や月が見える。畑にはハーブを植えてみようかな」。そよ風に吹かれ、次々とアイデアが湧いてくる。

一緒に働くガイド仲間は、出身も前職も様々で、海外経験も豊富。仕事が終わった後は、川の話、旅の話に花が咲く。一杯飲もうと仲間が家に遊びに来ると、囲炉裏を囲んで語り合ったり、ギターを弾いて歌ったり。近所のお年寄りから野菜やイノシシやシカの肉をもらうとパーベキュー。アユを焼いて、漁師さんと日本酒を飲むこともある。地区のお花見の準備、稲刈りや天日干しは仲間と手伝いに行く。

いい仕事、いい仲間、気にかけてくれる地域の人。年収は200万円足らずだが仕事も暮らしも充実している。貯まったお金で、シーズンオフは海外旅行も楽しむ。「テレビもパソコンもない。でも時間がたくさんあるし、なにより気持ちの余裕がある」。

いい流れに乗って

「OK!」と、オーストラリア人の社長・マーク。彼は10年前にこの地に住みつき、福祉施設の一部を借りてラフティングの会社を立ち上げ、国内外からユニークなガイドを集めてツアーを実施している。ここに住みたいなら役場に問い合わせてみたら、とアドバイスを受けた。ガイドの多くは世界を股にかけ、定住する人は少ない。しかし多田さんは標高400m

22歳の時、仕事を辞めた。畑が広がる留寿都村のリゾートホテルでアルバイトし、休日はスノボ三昧。夏場はニセコでラフティングの資格を取り、ガイドとして働いた。

2年後、高知に帰って驚いた。「スーパー銭湯、ドラックストア、ファッションセンター。バイパスにつながる太い道路が通って、好きだった田んぼの町じゃない。私が暮らすのはここじゃない」。大豊町岩原に本拠地を置くハッピーラフトの門を叩き、次のシーズンのガイドをしたいと相談した。



毎年恒例の稲刈り。汗を流した後は、一緒にお弁当を広げる。

今年の夏は、
高知の川、海に
飛び込もう！

遊びに来てね
PART ①

真っ青な海の中、ブリの大群やマダラトビエイが頭の上をかすめていく。沖の島のサンゴやトロピカルな魚は、沖縄に引けをとりません。子どもの頃から泳いできたこの沖の島の海、一度潜ったらやみつきになりますよ！

沖の島ダイビング黒潮
地元の旬の魚も味わえます！
<http://www.okinoshima-diving.com/>

岡崎 良紀さん(28)

ダイナミックな
海と一体に！



アジと知恵比べ！



濱 晃さん(37)

ルアーでアジを釣る「アジング」。10年前に地元須崎でもアジングできることを発見しました！一度引いても針を吐き出す神経質なアジを、いかにして釣るのかは腕の見せ所。釣ったアジはリリースするか、刺身や干物にしておいしくいただけます。

アジングスポット須崎
アジング大会を開催する「34」
<http://www.34net.jp/>

幡多の自然でつながる
野外フェス！



神原 奈甫さん(39)

キャンプをしながら音楽やグルメを体感できるイベントを！幡多地域の30代が中心となり、県内外のミュージシャンやパフォーマーのライブ、伝統芸能からアートまで、異文化の混ざり合う「はたフェス」を開催しています。

はたフェスヴィレッジ
2014年9月20日～21日
三原村キャンプ場(幡多郡三原村下長谷)
<http://hatafes.com/blog/>

アユとかけひき！



道の駅田野駅 勤務
山本 義和さん(37)

おとりアユを泳がし、突進してくるアユを手の感覚ひとつで釣り上げる友釣り。ひっかけ方も仕掛けの作り方も十人十色。奈半利川は上流にダムがあるため、夏場も水温が低く、アユが食べるコケの質もいいんです。

越知町観光協会
<http://www.ochi-kankou.jp/river/>

透き通った仁淀ブルーを楽しんだり、川面から段々畑を見上げたり。仁淀の歴史や文化など、ガイドと話をしながら川を下ります。穏やかな仁淀川ラフティングは、3歳から参加できるので、ファミリーにもおすすめです！



金原 隆生さん(28)

水質日本一の仁淀川を
ゆったり下ろう！

「朝5時頃、友達と鏡川まで歩いて、ミミズ掘って、釣り糸を垂らしてハヤとかイダを狙って。それから朝ごはん食べて、小学校」。宮崎晃さん(41)は、鏡川がゆったり流れる高知市鴨部で生まれ育った。「釣りキチ三平」が大ヒットしていた頃で、同級生の男子で釣りをしない者はいないほど。30cmのイダを釣りあげたら、通りすがりのおんちゃんが立ち止まって「大きいがを釣ったねえ!」。子どもながらに誇らしかった。

夏休み、ズボンをまくって膝までザブザブと川に入り、砂利や茂みのある場所に網を落とす。父の仕事が早く終わった日は、車で上流の方へ一緒に行って、日が暮れるまで泳いだ。流れの速い浅瀬も自然と歩けるようになったし、少々流されても平気。川は自分を育ててくれた。

川を見る目が変わった

時は流れて2007年。県外の大学を卒業し、高知市役所に入って10年が経った。市民税課から環境保全課に異動になり、久しぶりに足を運んだ鏡川はどこか違った。「魚やエビの影がない。泳ぐ子も釣りをする子もいない」。堰ができ、護岸工事が進み、このままいったら10年後、20年後は……。危機感から、目の前の「今」を記録しはじめた。

「こんなところに花が咲いている、あんな鳥もいる。カメラを持って山や川に入ると、いろんなものに気づくんです」。刻々と変化する自然を写真に残した。何度も通い、気をつけて見てみると、



川と遊び
川と生きる



遊びにきてね
PART ②

水族館で
待ちゆくき!

この迫力が
たまらんがよ~!

遊びにきてね
PART ②

水族館で
待ちゆくき!

この迫力が
たまらんがよ~!

遊びにきてね
PART ②

水族館で
待ちゆくき!

この迫力が
たまらんがよ~!

ラフティング

吉野川、仁淀川、四万十川の、水の色も風景も違う3つの川で、各社がツアーを実施しています。

吉野川エリア(長岡郡大豊町)

- 有限会社ハッピーラフト
<http://www.happyraft.com/>
- フォレストアンドウォーター
<http://www.fw-raft.com/yoshino/>
- モンベル
<http://www.montbell.jp/>
- 株式会社リパーランプラス
<http://rafting.jp/>
- ビックスマイル吉野川大田口ベース
<http://www.gekiryu.com/ooboke/ooboke01.html>
- ラッキーラフト
<http://luckyraft.com/>

仁淀川ラフティング(越知町、いの町)

- 越知町観光協会
<http://www.ochi-kankou.jp/river/>
- 土佐和紙工芸村「くらうど」
<http://niyodogawa-rivercruise.com/>

四万十川ラフティング(四万十市)

- ナチュラル・グルーヴ
<http://www.rafting.gotohp.jp/>
- 四万十カヌーとキャンプの里 かわらっこ
<http://www.kawarakko.com/>
- 四万十川の駅カヌー館
<http://www.canoekan.com/>
※ゆったりファミリーラフティング

生き物と触れ合う

生き物から高知の自然を感じてみる。
川や海の生き物に触れ合える水族館に行ってみよう!

- 桂浜水族館
高知市浦戸778 桂浜公園内
<http://katurahama-aq.jp/>
- 四万十川学遊館
四万十市具同8055-5
<http://www.gakuyukan.com/>
- 高知県立 足摺海洋館
土佐清水市三崎字今芝4032
<http://www.kaiyoukan.jp/>
- 足摺海底館
土佐清水市三崎長嶋地先480-ハ
<http://www.a-sea.net/>
- 土佐清水市マンボウスイム、ジンベエスイム
http://www.city.tosashimizu.kochi.jp/sight/jin_m.html
<http://www.city.tosashimizu.kochi.jp/sight/jin.html>
※マンボウは4~7月、ジンベエは7~10月に実施
- 室戸ドルフィンセンター
室戸市室戸岬町字鯨浜6810-162地先
<http://www.muroto-dc.jp/>



塩づくり体験

高知の海を丸ごと食べる天日塩。塩の結晶の手触り、天日塩ならではの味わいを感じられる製塩所に行ってみよう!

- 有限会社ソルティープ製塩所
幡多郡黒潮町灘333
TEL : 0880-55-3226
- 企業組合ソルトビー
<http://salt-bee.net/>
- 田野町完全天日塩製塩体験施設
<http://www.tanoekiya.com/tano/taiken.html>



体験マップ

展示のために獲った魚。左から、アユ、イダ、アユカケ。



ある日、「鏡川こども祭」の主催者が窓口にやってきた。縄手町のトリム公園で子どもが川に触れる機会を作りたいと言う。イベントを支えるのは鏡川流域のリタイア世代の人たち。水切り大会、いかだ下り、竹トンボ作り。婦人会はツガニそうめんを作って振る舞う。

自分ができること

毎年恒例の家族とのキャンプも変わった。「川にどんな生き物がいるのか探そうになりまして」。アユの友釣りをしたり、エビやカニ、虫の幼虫を獲ったり。車で上流へ20分も走れば、足元にアマゴが泳ぐ清流にたどりつく。「そんな近所にテントを張って泊まるなんて笑われるかもしれないけど」。4人の子どもの育てる父として、お弁当代だけで一日遊べる場所が貴重だ。

川で遊ぶ子どもの姿もある。もっと人が環境を意識して生活すれば豊かな川を取り戻すことができるかもしれない。「たくさんの方が暮らす県都を流れる川で、子どもが泳ぎ、遊んでいる。こんな川、他県にはない」。川に対する思いがガラッと変わった。



第1回の展示(写真左)から進化した鏡川水族館(中央)。子どもたちは興味津々。主催者は「こんなに人気があると」と驚いた。第5回鏡川こども祭は、2014年9月開催予定。(高知市縄手町トリム公園)

それぞれが得意技を持ち寄り、子どものために力を合わせる姿に刺激を受けた。イスやテントを貸し出す手配をし、上司や同僚と市のブースを設けて川の魚を水槽に泳がし、魚の獲り方のイラストをパネルにした。約1000人が集まり、展示も好評だったが、翌年、出納課に異動になった。「残念やねえ」。主催者の言葉が痛かった。

ふと考えた。親が川で遊んだ経験がないと、子どもは川で遊ばない。子どもが川で遊ばないと、川の変化に気づかない。イダ、ヨシノボリ、アユカケ、スズギ、テナガエビ、モクズガニ……。子どもたちの目の前のこの川に、いろんな生き物がいるんだよ。ただ、それを知らせたい。異動して2年、「鏡川こども祭」の主催者に個人で企画を持ち込んだ。展示用の水槽を増やし、タッチプールを加え、「鏡川水族館」と銘打った。生きたまま展示するには、前日に生き物を獲る必要がある。なんとか12点確保でき、「幸運にもアユカケが獲れたんです」。石に化けて、近寄ってくるアユを食うアユカケは、めったにお目にかかれない貴重な魚だ。親は懐かしそうに、子どもは珍しそうに見つめる。

タッチプールでは「痛っ!」と子どもの声。普段、川で遊ばない子が、エビやカニを掴もうとして鋭いハサミで挟まれる。「カニはこうやって持つがで」。そう教えると、子どもたちの目が輝く。当日、会場に集まった親子は2000人以上。「昔はこんな魚を獲りよったがで」「今度、釣りしにこよう」。参加した親の「また来年も!」という声に意欲が湧いてくる。



この海で なりわい 生業をつくる

「郵便局辞めて、一緒に塩を作ってくれん？」。吉田拓丸さん(31)は、高知市内で勤める3歳年下の幼なじみを飲みに誘って、思いを告げた。夢を実現するには、信頼できる人がどうしても必要だった。収入は、きっと減る。そう切り出すのに、ためらいがなかったと言えば嘘になる。答えは「わかりました」。即答だった。

子どもの頃遊んだ海で

吉田さんは3歳の時、塩を作ると言い出した父と母に連れられ黒潮町佐賀へやってきた。国道から伊与木川の支流へ

まで下って。海で泳いでベタベタしたら最後は川で締める」。中学1年生の時、10mの橋の上から飛び降りる通過儀式があった。「飛び込めなけりゃあ『男』じゃねえ」。みんな高揚して競って川に飛び込んだ。京都の大学に進学してからは度々「海不足」。「いてもたってもいられずに、日本海で素潜り」。時おり思い浮かぶのは、いつも高知の風景だった。「ヤドカリ潰してハゼ獲った海とか、初恋の女の子にフラれてしょげて帰った川沿いとか」。

自分が一人で食っている自信がついてから帰ろうと、卒業して大阪のダイビング会社に就職し、インストラクターの資格を取った。



原料の海水は、晴天が2〜3日続いた満潮の日、沖からの清浄な海水を汲み上げる。すだれを垂らした採鹹(さいかん)ハウスで塩分濃度を濃縮させ、結晶ハウスの木箱に入れて天日干し。毎日108箱を攪拌して、結晶を一定の大きさにする。この間、夏場で約1か月。脱水して異物を取り除けば、天日塩のできあがり。

車で5分、夏は蛍が舞い込んでくる家。「大阪の市営住宅から古いトタン葺きの家に引っ越して、テレビもないし、いつも遊んでいた公園もない。僕んちピンポ」。あのショックは今も鮮明に覚えている。しかし、1か月も経つ頃には、山川、海が公園以上の遊び場になっていた。

海で遊んでいると、自分の腕に白い粒が浮きあがっている。思わずなめた。「うまい! 塩なのに、なぜか甘みがある」。天日塩を作る父と母の仕事が腑に落ちた。自分も大きくなったら塩をつくる。それは自然な流れだった。「小学生の時は、友達と一緒にその辺に落ちている木でイカダをつくって、海

海水が結晶するように

ダイビングの腕に納得できた2009年、故郷に戻った。専売だった塩が自由化され、町内や県内で完全天日塩を作る人が増えていた。「せっかく大学まで行ったのに」と父に言われたが、これも修行と塩づくりに励んだ。

父と母が作る天日塩は、ほとんど売り先が決まっている。その上、施設の老朽化で年々収量が減っている。自分が塩をやるなら、新しい製塩場を作って、販路も開拓して……。父に考えを伝えた。「このままの規模でいいし、おまえはダイビングで食えるやろ」。構想と説得に2年。父は重い腰をあげた。



父母が創業した(有)ソルティープの「土佐の塩丸」。新しい製塩場では、塩の直売の他、塩づくり体験(浴用塩のエステ付)も実施している。

の仕方でも、塩の味は変わる。数か月は気に入る味にならず、何度も塩を捨てた。「これだ」という味にたどりつき、新しい青いパッケージの「土佐の塩丸」が生まれた。

日中60℃にまで上昇する製塩場。2人は汗だくになり、塩の感触を手で感じながら攪拌(かきまぜ)を繰り返す。商品ができあがると、吉田さんは信頼できる相棒に塩場を任せ、売り込みに戻る。道の駅やアンテナショップ、居酒屋など、新しい販路は10店ほどに広がった。まさに二人三脚。海辺に暮らし、海を生業にしようとしている。



左から、塩つぼをつくる「日常屋」の清藤弘晃さん(39)、塩丸のにがり豆腐をつくる「まっ坊豆腐」の志治誠則さん(35)、「ソルティープ」の吉田拓丸さん(31)と下谷誠司さん(28)、塩と塩つぼを販売する「NPO 砂浜美術館」の香庄謙一さん(35)。仲間と共に塩丸は広がっている。





アゲアゲ
天国 vol.7

港町の かき氷

観光客が波のように押し寄せる、
カツオ一本釣りの町、中土佐町久礼。
にぎわう市場を外れたら、
「氷」の暖簾がはためいている。



「お好み焼き古谷」
かき氷は二百円から。
あずき三百円、ミルク金時四百円。
(中土佐町久礼中島6-1-88)

「古谷の氷、食べにいく」。夕暮れ時、部活帰りの中学生が100円玉を握りしめてやってくる。かき氷機を動かすおばちゃんの横で「もっと、もっと。蜜もようけ」と催促。おばちゃんはぎゅつと氷を押し、またその上に氷をかく。

「朝6時頃から2時間。白の砂糖からコトコト煮いて、最後に水あめを入れるがやけど、この味になるまで何度も捨てた」。古谷末子さん(76)は、蜜はもちろん、あずきも豆から炊く。「これやないと柔らかい氷にならん」と、白鳥印のかき氷機は店と共に40年。

ある日、野球部の中学生が氷を食べながらポツリと言った。「明日の試合、どうなるろう。負けるかも」。店の壁には中学野球の対戦表。おばちゃんはすかさず、「力を出してきい。勝ったら全員、ミルク、ただ!」。次の日、対戦表に赤丸がついた。「ミルクや、ミルクや!」と喜び勇んでやってきた野球部員に、「みんな、えらかつたねえ」とミルクをたつぷりかけてやる。

「もう年やし、いつまで続けられるか」。おばちゃんはそうつぶやきながら、暖簾の向こうに懐かしい常連さんを見つけ、「久しぶりやねえ、寄っていきい」と声をかけた。

家業を
継いだあの人
せがれ
vol.07

夏の夜空を 演出する

浴衣着て、ふらりと近所の夏祭り。
間近で打ち上がる花火は迫力満点。
花火製造業が一軒もない高知県で、
地域の花火大会を支える人がいる。



高村火薬店 営業部長
高村 俊寛さん



全国的に、花火は製造業者が打ち上げを担うことが多い。数千発規模の花火大会は県外の煙火製造業者に頼らざるを得ないが、県内でひと夏に打ち上げられる花火の約9割は数百発の花火大会。その多くは地域の火薬店が担っている。「花火は季節もので、売り上げのごく一部。でも、うちの大事な柱」。

マニアックな性格

高村さんは、子どもの頃から機械いじりが好きだった。「バンドやろうぜって誘われたら普通はギターとかベース買うがですけど、僕は録音機材のMTRを買うたがです」。高校3年間は放送部員「これからはMDの時代やき」。先生を説得

「8時ちようどをお知らせします」。トトトト、パンパンパンパン。時報のアナウンスに合わせて花火が夜空を彩り、歓声と拍手が巻き起こる。「やっぱ、えいねや」。父が打ち上げる花火を見上げ、幼心に火がついた。

高村俊寛さん(35)は、かつて鏡川まつりの時報花火を担っていた高村火薬店の五代目。産業火薬、銃砲、花火の三本柱

で、創業116年目を迎える。

高知県は「土佐」と呼ばれていた時代から、良質な石灰の産地。石灰産業の発展と共に、採掘用のダイナマイトを仕入れて現場に運ぶ火薬店が県内各地に生まれた。また、高知県は北海道、長野県に次いで猟友会の会員数が全国3位。銃砲と銃弾の販売、保管やメンテナンスなどのアフターサービスも火薬店が担ってきた。

して、県内高校で初めてMDデッキを手に入れ、自由自在に音楽を切ってつなぐDJプレイにはまった。体育祭が近づくと、応援合戦の曲を編集できると評判が立ち、デッキの前で腕を振るった。小学生の時に路面電車で通学して以来、乗り物オタクの自称・鉄っちゃんでもある。東京の大学に進学し、交通政策のゼミに入った。飛行機や電車の乗継の経路を考えたり、バス会社に利便性のいい路線を提案したり。個人的な趣味やつたのに、世の中の役に立つがや……！。目から鱗が落ちた。

絶やせない仕事

大学の夏休みは毎年帰省して花火を手伝った。現場でベテランの従業員についているにも関わらず「俊寛が花火やりよったらヒヤヒヤする」と母。かつて打ち上げ中に大やけどをした父は「無理に継がんでいい」。一度は外の世界を見ようとして、まわりの友達と同じように就職活動をした。

高知県内の会社に就職し四万十市で家庭用品の営業をしていた2006年、高知自動車道の延伸が決まった。



た。花火の打ち上げが業務に加わったのは、戦後だった。高度経済成長に伴って町に人が増え、お祭りも大きく派手になっていった。町内会で協賛を集め、夏祭りに花をそえる。「地区単位の花火大会を引き受けはじめ、今も300〜500発の花火大会が最も得意」。使う玉が小さくても、観客席までの距離が近く、迫力を出せる。

急峻な高知の山に道を通すには、何本もトンネルを掘る必要がある。火薬で山を崩すため、仕事を落札した土木会社から火薬の見積り依頼が来る。受注が決まれば現場に合った火薬をメーカーから仕入れ、工事中は毎日、火薬を現場に運ばなければならない。父は頻りに土木会社に電話したり顔を出したりして、年間を通して受注が途切れないように気を配っている。「火薬は売ったら終わりやない。余った火薬を回収したり、管理する責任がある。もしも親父



産業火薬を車で運ぶ時は必ずこの旗をつける。

※～ねや：～ねえ。「にゃあ」と聞こえることもある。男性が使うことが多い。
 ※～がや：～なんだ。高知の人は男女問わず「が」を多用する。



が倒れたら」。跡継ぎ不在で廃業する同業者もいるが、自分は家業を守りたい。

2007年、高村火薬店に入社した。梅雨が明けると夏本番。毎週末、ピークのお盆は一日2〜3か所で花火を打ち上げる。日が高いうちから打ち上げ用の筒を設置し、煙火と電気点火装置をセットする。作業手順を間違えると、花火はその場で爆発する。「直径9cmの玉でさえ当たり所が悪かったら、死ぬ」。みんなが遊んでいる時に、危険にさらされて、汗だけで……。しんどい思いも、打ち上げ後の歓声に吹き飛ばされる。

「今年もよかったです！」。帰り際に花火を見ていたおんちゃんの声をかけてくれる。中には「川の水面をもっと活かしてや」という厳しい意見も。「そうやって花火を見てくれよう。来年はもっと考えんといかんねや」。顔が見える距離だからこそ、よくしていこうと素直に思える。

もっと楽しませたい

「鏡川で花火を上げたい」。2013年、



30年前の花火設置現場。父の代から電気点火に切り替え、より安全に花火を打ち上げている。

高知青年会議所から60周年を記念したイベントの相談があった。しかし提示された予算では10分足らずで終わってしまう。鏡川の花火といえは、よさこい祭りの前夜祭。約2時間かけて4000発を打ち上げる。「こんなが、よさこい花火の小さい版。完全に負け」。

その時、付き合ひのある県外の花火業者の言葉を思い出した。「日本に2台しかないフルカラーレーザー照射機を買うたけど、高知でやってみん？」。ここ数年、全国の花火大会に登場している「ミュージック花火」。音楽のリズムに合わせて、花火が上がリ、レーザー光線でオーロラなどの模様を空に映し出す。単色のレーザー機が主流の今、高知で初めてフルカラー機を使って、しかも同じ予算で20分以上のショーができる。「どうせやるなら、抜さん出たことやりましょう」。

高知ロケの映画やドラマの音楽を選び、サビからサビへつなぐ。「最初はリズムに合わせて、ここでひまわりの花火。煙がたまったらレーザーを照らす」。当日の天気は晴れ。打ち上げ、照射、音響の3か所でストップウォッチを握り、「せーの」の合図で高知初の花火のショーがはじまった。

今回は、ライブ演奏に合わせて花火を上げて……。満足した主催者は、よりハードルの高い要求をしてきた。「近くても安全で、安くても見ごたえのあるものを」。花火を楽しみにする人々の声を頼りに、俊寛さんは工夫を凝らして夜空を彩っている。



2013年、土佐風土祭りのミュージック花火。花火とレーザー光線が競演した。

2014年 高村火薬店による花火大会

- 7月17日 南国市篠原・若宮八幡宮
- 7月19日 南国市大それね・大篠豊年祭り
- 7月26日 高知市潮見台・潮見団地納涼祭
- 7月26日 南国市大それね・十市おらんく祭り
- 8月2日 南国市大それね・土佐のまほろば祭り
- 8月2日 日高村・仁淀川能津花火大会
- 8月3日 香美市土佐山田・神母ノ木の太川祭り
- 8月13日 四万十町・志和花火大会
- 8月15日 四万十町・興津ふるさと子供祭り花火大会
- 8月16日 高知市・布師田納涼祭
- 8月31日 高知市鏡川湖畔・土佐風土祭りミュージック花火



とさこの七印

愛用者

藤原 和加さん(雑貨店・ブックワ店主)

吉田浩子さんの グラス

風鈴のような涼やかさ

夏はガラスものがほしいな、と思っていた時、浩子さんの作品と出あいました。気泡が模様をつくり、一つひとつ形が違う。厚口だけど手なじみがよく、重く感じません。

吉田浩子さんのガラス作品は、ブックワ(高知市南はりまや町1-10-10)、川村雑貨店(須崎市赤崎町1-1-13)などで展示・販売しています。





鳥居の奥が、河泊様の社殿。土俵の上には注連縄が張られている。

◆ 下田の河童伝説 ◆

元禄時代のこと、下田川に河童が住んでいた。女や子どもを川に引き入れ、度々危害を加え、稲生の人は大変恐れた。ある日、百姓が馬を川に入れて洗っていると、突然、馬が跳ねまわる。河童が後ろ足にしがみつき川へ引きずり込もうとしている。ところが、馬の力が強く、河童は川から跳ね上げられてしまった。集まった人に蹴ったり叩いたりされる河童を、延福寺の和尚が引き受けた。庭木についでおくと、泣いて庭の草を引きはじめた。和尚は危害を加えないことを条件に河童を下田川にはなしてやると、それから河童の悪戯はなくなった。(参考・南国市史)



【伝説探訪】
かはくさま
河泊様

白く切り立った石灰岩。採掘場の煙の色に似た下田川にかかる稲生橋を渡り、細く曲がった路地をのぼっていくと、水色の屋根の小さな社殿が現れる。旧暦6月12日の「河泊様の日」、近隣の人々はきゅうりを持つお参りし、社殿にお供えする。水難よけ、無病息災……河泊様に願いを込めて。もともと水分を多く含む瓜類と水の神は親和性が高い。高知に伝わる七夕の昔話でも、主人公が瓜を食べようと割ったところ、大水が出て流され、恋仲の二人が別れ別れになってしまう。水に潜む河童も瓜の仲間であるきゅうりが好物だ。「昔の下田川はきれいだった。夏祭りの日は、川で泳ぐ子どもに向かて、橋からスイカを放

いなぶ
浦戸湾に注ぐ下田川流域の南国市稲生は、「河泊様」と呼ばれる河童を祭神とする神社がある。

り投げたもんよ」と、橋のふもとで酒店を営む井上敏さん(80)。「スイカばい」と呼ばれ、子どもたちは次々と川に飛び込み、割れたスイカにかぶりついた。日が沈むと、夜相撲がはじまる。まるでそこが特等席のように、河泊様の社殿の前に土俵が広がる。「石灰業が華やかな時代は賞金が派手で、関取が集まって、そら迫力があつた」。相撲は稲生か仁井田、と噂が立つほど有名で、師範学校の相撲部員が賞金をねらって四股を踏んだ。現在、相撲をとるのは子どもだけだが、川沿いの県道に夜店が立ち並び、地区外から小中学生が集まり、かつての名残を感じることができる。



祭りの日、絵金の屏風絵と海洋堂のフィギュアが花台に飾られる。

教えて先生

高知県立歴史民俗資料館 梅野光興さん

土佐では河童のことをエンコウと言いますが、下田の河泊神社の主役は、カハク様であり河童と呼ばれることが多いようです。1747年の「土陽洲岳志」は下田の伝説の最古の文献ですが「河童」です。史料をみると、「エンコウ」という呼び名が広がるのはそれ以降のようです。また、下田の社は江戸時代は標須部(ひょうすべ、九州での河童の異称)明神で、河泊様は明治以降の呼称のようです。妖怪の名前も時代によって変わっていくのですね。



Information
2014年の河泊様は、7月8日(火)。県道は封鎖されるため、公共交通などでお越しください。

戦国 元親くん

第7話

「気を配る」

本能寺の変から25日後の清州会議で信長の跡目争いの主導権を握った秀吉は、矢継ぎ早に地位固めの手を打った。一方、元親は四国平定を急いだ。清州会議から2か月後、四国統一に王手をかける戦いが始まった。



はしば ひでよし
羽柴秀吉 (後の豊臣秀吉)

あわ みよし
阿波・三好

さぬき そごう
讃岐・十河

※軍師官兵衛の知恵で、全軍を岡山・高松城から京へ向け200キロ近く大移動させた。

1

毛利と調停し、中国大返し※で光秀を討った秀吉。これに、以前から秀吉と通じ合っていた三好・十河勢は勢いづいた。三好の本拠・勝瑞城には「鬼の十河」と恐れられた十河一存に育てられた十河存保(長治の弟)がいた。



元親様、三好は秀吉の甥を養子にしていますし、ここで戦をして敵に回すのはどうかと…

もろちか
元親

4

世紀の中富川合戦の火ぶたが切られた。攻める元親軍。籠る三好軍。そこに大雨が降ってきた。

1582年



大将 十河存保

うおお おおろ

かかれ、かかれ!!

こういう主君に仕えられて幸せだーっ!

元親の弟 香宗我部親泰

5

ついに川が溢れ付近は水没した。当時、食料は各陣ごとに準備することになっていたが、元親は自分の食料を減らして兵を救った。農民兵に心を配りける元親に大いに団結心が高まった。



各陣では、薪が濡れ、飯炊きができません

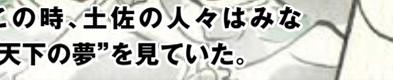
元親様のために一命を捧げようぞ!

いよいよ天下が近づいた!



7

この時、土佐の人々はみな「天下の夢」を見ていた。



ハンナン! いや、討ち取ろうとすれば、多くの兵を失うことになる。戦は勝ち過ぎない方がよいのだ。

元親 信親 親泰

6

元親軍の勝利目前、十河存保の立ち退き嘆願に元親は囲みを解いた。元親はなぜ戦いきらなかつたのか? 一領具足は農民の命をムダにしない——元親は姿勢を貫いた。



諷岐に帰れば、もう一度戦える… 討ち洩らしてはなりません

囲みを解くなら城を明け渡してもよい!

逃がしたら禍根を残します

元親軍 岡豊 海部 香宗我部親泰軍

3

元親の呼びかけに、長男を除く15歳~60歳の農民達が応じ集まった。



これまで苦勞をかけてきたが、勝利の暁にはみんなの田畑を増やそうぞ!

今度は四国平定をかけた大戦だ。

よっしゃ~!!

一領具足の声を聞きに足を運ぶ元親。



三好・十河と一戦を交えるかもしれないが、どう思うせよ?

みんな精がでるの、

※戦国時代、他国では兵農分離で戦軍が形成されつつあったが、土佐では兵士と言っても「一領具足」と呼ばれる農民が主力だった。



「ぶしからの贈り物」

アンケートに答えていただいた読者の方に、とさぶし7号の関連グッズを抽選でプレゼントいたします。今回の逸品は……



応募締切：2014年8月末

1 黒潮町の天日塩 「土佐の塩丸」と塩つぼセット 2名様

天日塩(200g)と取っ手がクジラの塩つぼ。どちらも黒潮町産です。ギフトボックス入りでお届けします。



2 高村火薬店セレクトの花火セット 3名様

自宅で、キャンプで楽しめる打ち上げ、手持ちの花火セットです。火の後始末には十分ご注意ください。



3 吉田浩子さんの涼やかなガラス作品 各1名様



A アイスクリームやかき氷が似合う器
B 気泡がさわやかなグラス

応募はWEBサイト <http://tosabushi.com>
TOPページ「ぶしからの贈り物」から
※当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。

お出かけに「とさぶしアプリ」が便利!



とさぶしで紹介されたお店や場所に行ってみよう! そんな時は、スマホ用アプリのMAPをご利用ください。(iOS、Android OSに対応しています)

- ① とさぶしWEBサイトから、アプリをダウンロード
<http://tosabushi.com/archive.html>
- ② 「とさぶしアイコン」を起動
- ③ バックナンバーの下の アイコンをクリック!

でんづき でんづき

vol. 07

なんちゃじゃ
ないけど、
クセになる
「とさぶし写真館」

©Yozo Oda



香南市の海水浴場「ヤ・シイパーク」にて。

写真・文 織田 庸三